

7 問題別応答分析と指導上の留意点

表右端の「%」は、無作為に抽出した10%の生徒の正答率である。数値処理のため合計が100%にならないことがある。

(3) 大問 [三] 国語基礎力の応答分析、考察、指導上の留意点

問一

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%	
問一 (1)	a	正答	エ (お尋ねして)	100	98	93	291	97.0
		誤答	イ (お尋ねになって)			7	7	2.3
			ア (尋ねまして)		2		2	0.7
		ウ (尋ねなさって)					0.0	
	b	正答	ウ (ご存じありませんか)	98	93	94	285	95.0
		誤答	イ (存じ上げませんか)	1	4	3	8	2.7
			ア (ご存じいたしませんか)	1	3	3	7	2.3
エ (存じ上げになりませんか)							0.0	

道を尋ねる際の適切な敬語を選ぶ問題である。謙譲語を選ぶaの正答率は97.0%、尊敬語を選ぶbの正答率は95.0%であり、ともに高位の<a b c型>を示している。昨年度の敬語問題と同様、実際の敬語表現の中から選ぶのは、感覚的に選べて易しかったようだ。事後調査の結果を見ると、a・bともに正解した生徒でも敬語の種類を聞いてみると間違っただけのものを選ぶ者が3割以上もいる。実際の言い回しとしては馴染みがあるが、文法的な知識としては定着していないようだ。高校生として国語を学習していく上で、ぜひ定着させたい事項である。

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問一 (2)	正答	ア (郵便局)	60	34	24	118	39.3
	誤答	ウ (ガソリンスタンド)	30	40	44	114	38.0
		エ (レストラン)	10	26	31	67	22.3
		オ (体育館)			1	1	0.3
		イ (公園)					0.0

本屋の「はす向かい」という説明から、郵便局を選ぶ問題である。正答率は39.3%であり、低位の<a - b c型>を示している。事後調査の結果から、「はす」が「斜め」という意味であることを知らない生徒が、かなり多いということが分かった。誤答ウの「ガソリンスタンド」を選んだ生徒は、「はす」の意味が分からないまま、向かいにあるものを選んだと思われる。

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問一 (3)	正答	オ (たもと)	44	21	8	73	24.3
	誤答	ア (ふもと)	23	46	52	121	40.3
		ウ (すそ)	26	19	21	66	22.0
		イ (ねもと)	5	13	15	33	11.0
		エ (ふところ)	2	1	4	7	2.3

地図上の橋と交番の位置関係から、「(橋の)たもと」を選ぶ問題である。正答率は24.3%であり、低位の<a - b - c型>を示している。事後調査によれば大多数の生徒が、「橋のたもと」という表現も、「たもと (袂) を分かっ」という表現も知らなかった。問一 (2) と同様に、生徒の言語生活

において「はす向かい」「橋のたもと」といった表現はかなり耳慣れないものになってきているようだ。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (4)	正答	もう一つ	99	94	77	270	90.0
	誤答	お城もあ	1	1	6	8	2.7
		一つ信号		2	3	5	1.7
		(その他)		3	9	12	3.9
		(無答)			5	5	1.7

会話文の中から必要ではない情報を見分ける問題である。正答率は90.0%であり、高位の<a b - c型>を示している。誤答のほとんどは一文の最初の4字という設問の指示を見落とし、一文の途中から抜き出したものである。昨年度のキャンプ場の案内チラシから必要な情報を読み取る問題よりも、二人の会話文の流れから情報を読み取る方が容易であったようだ。

問二

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	イ(日没)	99	84	61	244	81.3
	誤答	オ(読書)		7	13	20	6.7
		ウ(犯罪)		2	14	16	5.3
		エ(観劇)	1	6	8	15	5.0
		ア(握手)		1	4	5	1.7

語の構成が異なる熟語を選ぶ問題である。正答率は81.3%であり、高位の<a - b - c型>を示している。誤答のうち「握手」は構成がわかりやすいため比較的出現率が低かったと思われる。熟語の構成は、高校における漢文学習の基礎として押さえておきたい事項である。

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三 (1)	正答	エ(イデオロギー)	61	25	24	110	36.7
	誤答	イ(マニュアル)	21	37	37	95	31.7
		ア(ジレンマ)	9	16	19	44	14.7
		オ(ナーバス)	8	15	7	30	10.0
		カ(カリスマ)	1	7	10	18	6.0
		ウ(プレッシャー)			3	3	1.0

語の説明から「イデオロギー」を選ぶ問題である。正答率は36.7%であり、<a - b c型>を示している。社会情勢の変化もあり、「イデオロギー」は日常生活では耳にしない語となっているようだ。逆に「マニュアル」を選択したものが多かったのは、最近よく耳にするようになった「マニフェスト」との混同であろうか。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三 (2)	正答	カ(カリスマ)	77	49	48	174	58.0
	誤答	エ(イデオロギー)	8	19	13	40	13.3
		イ(マニュアル)	7	12	13	32	10.7
		オ(ナーバス)	4	12	13	29	9.7
		ア(ジレンマ)	3	7	9	19	6.3
ウ(プレッシャー)	1	1	4	6	2.0		

語の説明から「カリスマ」を選ぶ問題である。正答率は58.0%であり、＜a－b c型＞を示している。「カリスマ」は、現在様々な場面で用いられる外来語だが、正答率がさほど高くないのは、問題文の「教祖的な」という説明が理解しにくかったからではないかと考えられる。

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問三 (3)	正答	ア (ジレンマ)	38	23	15	76	25.3
	誤答	ウ (プレッシャー)	53	64	75	192	64.0
		オ (ナーバス)	7	9	8	24	8.0
		エ (イデオロギー)	2	3	1	6	2.0
		イ (マニュアル)		1	1	2	0.7
		カ (カリスマ)					0.0

語の説明から「ジレンマ」を選ぶ問題である。正答率は25.3%であり、低位の＜a－b－c型＞を示している。外来語の意味を尋ねた問三は全体に正答率が低かった。なかでも「ジレンマ」は、事後調査によると多くの生徒がテレビなどで見聞きしたことがあると答えたにもかかわらず、正答率が問三の中で最も低かった。問題文の「板挟みで苦しい立場」という説明のうち、「板挟み」よりも「苦しい」に注目して、「プレッシャー」を選んだのであろう。語の微妙なニュアンスにはあまり意識的でない生徒像が浮かび上がる。

問四

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問四 (1)	正答	ちえん	91	70	30	191	63.7
	誤答	ちてい	1	2	7	10	3.3
		そうえん		4	4	8	2.7
		(その他)	5	15	34	54	18.0
		(無答)	3	9	25	37	12.3

「遅延 (ちえん)」の読みを答える問題である。正答率は63.7%であり、＜a b－c型＞を示している。普段耳にする機会の少ない言葉であるが、「遅刻」の「遅」、「延長」の「延」などそれぞれの読みを考えると正答に至る。誤答の多くは「延」を「廷」と間違えたと思われるものであった。

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問四 (2)	正答	らんよう	92	68	21	181	60.3
	誤答	かんよう	5	28	67	100	33.3
		はんよう	3	2	1	6	2.0
		(その他)		2	11	13	4.3

「濫用 (らんよう)」の読みを答える問題である。正答率は60.3%であり、＜a b－c型＞を示している。「濫」の旁 (監) から「かん」とした誤答が目立った。事後調査で「濫用」の意味を「濫りに用いること」と説明したうえで「濫りに」の読みを尋ねたが、正答の割合は極めて低く、今回「濫用 (らんよう)」と答えた者でも意味を正しく把握できていた者はごく少数であった。「濫」は使用する機会の極めて少ない漢字であり、常用漢字表に「濫」の訓読みはないが、意味を含めて正確に理解させたい。

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問四 (3)	正答	そこ (ねる)	100	100	99	299	99.7
	誤答	たず (ねる)			1	1	0.3

「損（そこ）ねる」の読みを答える問題である。正答率は99.7%であり、極めて高位の＜a b c型＞を示している。設問が「父の機嫌を損ねる」という文であったことも正答率の高さにつながったのであろうか。事後調査で「損」を用いた熟語を尋ねたところ、「損害」「損失」「破損」など、漢字の意味を正しく把握していることをうかがわせる回答が多く見られた。

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%	
問四 (4)	正答	微妙	90	66	26	182	60.7	
	誤答	微妙	5	12	13	30	10.0	
		微	2	2	9	13	4.3	
		微の字形の間違い			6	4	10	3.3
		妙の字の書き間違い	1	4	4	9	3.0	
		(その他)	1	4	18	23	7.7	
		(無答)	1	6	26	33	11.0	

「びみょう（微妙）」を漢字に改める問題である。正答率は60.7%であり、＜a - b - c型＞を示している。「微」を「徴」と間違えたものが目立った。また「微」の字形の間違いや書き間違いも非常に多く見られた。漢字は正確に覚えさせたい。またb c群では「妙」の書き間違いもいくつか見られた。昭和56年度の同様の設問では正答率63.5%であった。

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問四 (5)	正答	繕（う）	66	44	13	123	41.0
	誤答	編（う）	4	7	6	17	5.7
		縫（う）	3	6	3	12	4.0
		裁（う）	3	6	3	12	4.0
		(その他)	19	19	24	62	20.7
		(無答)	5	18	51	74	24.7

「つくる（繕）う」を漢字に改める問題である。正答率は41.0%であり、＜a - b - c型＞を示している。設問が「衣服の破れ目をつくろう」という文であり、「編」「縫」「裁」など、裁縫にかかわる語を連想しての間違いが多く見られた。

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問四 (6)	正答	普及	85	64	22	171	57.0
	誤答	復旧	1	4	7	12	4.0
		及の字の書き間違い	3	8	6	17	5.7
		(その他)	7	18	25	50	16.7
		(無答)	4	6	40	50	16.7

「ふきゅう（普及）」を漢字に改める問題である。正答率は57.0%であり、＜a b - c型＞を示している。事後調査では「普及」の意味を正しく把握している者の割合は極めて低かった。「普」「及」ともに中学で習う漢字であるが、特に「普」の意味が生徒に定着していないと思われる。熟語は漢字それぞれの意味を考えさせながら学習させたい。昭和63年度の同様の設問では正答率59.5%であった。

問四（4）～（6）の漢字に改める問題ではc群の無答率がa b群と比べて極めて高く、漢字を書くことへの苦手意識が感じられる。基礎的な学力の定着していない生徒に対し、漢字について粘り強く丁寧に指導する必要がある。

<指導上の留意点>

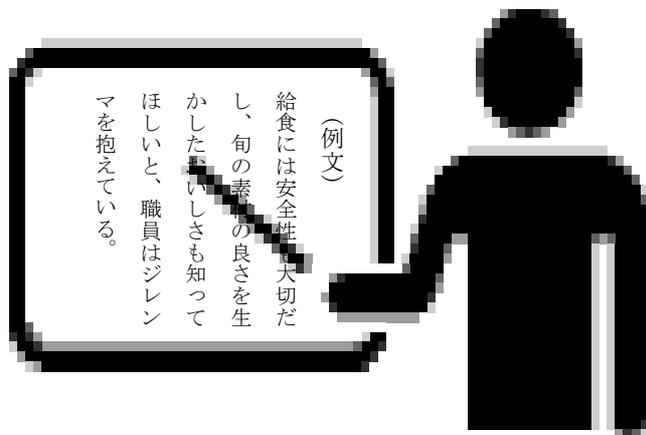
実態及び問題点

現代語の表現では「カリスマ美容師」「接客マニュアル」など、外来語の使用が増えてきている。その一方で、今回の外来語の意味を問う問題に関連した事後調査結果からは、見聞きしたことのある語でも微妙な使い分けはあまり意識しておらず、曖昧な理解のまま使用しているという傾向が明らかになった。かつて日本人が当時の外来語である漢語をうまく取り入れて豊かな国語を作り上げてきたように、外来語の意味を正確に理解した上で、適切に使用できるようにさせたい。

指導における改善の具体策

よく使用される外来語について調べ、理解を深める。

- 手順1 少人数のグループを作り、分担をして新聞・雑誌などから外来語を集めさせる。
- ・グループごとに「新聞の社説」「雑誌の広告」などのように調べる範囲を分担する。
 - ・固有名詞は取り上げないことを事前に確認する。
- 手順2 集めた外来語の意味を調べ、使用例を紹介させる。
- ・外来語辞典やインターネットを利用する。
- 手順3 印象的だった語を一つ選び、意味をまとめさせる。
- ・グループで感想を述べ合い、意味が難しい語、間違っ理解していた語などを選ぶ。
- 手順4 手順3で選んだ語について、発表する。



「ジレンマ」について発表します。
この給食センターでは食中毒を防ぐためにキュウリやキャベツにも加熱することになっているのですが、給食の野菜はおいしくないという声が多く、安全性とおいしさの板挟みになって苦しい思いをしているということです。この用例から分かるように、「ジレンマ」は、単に苦しいだけではなく、どちらとも決めかねて板挟みになるという意味合いがあります。

- 手順5 (発展) それぞれの語について、外来語のままだよいか、日本語に直した方がよいかを考えさせる。